

北海道銀杏会 第 29 回講演会

日時 2017 年 9 月 4 日(月) 18 時 30 分～20 時 15 分

場所 ホテルサンルート札幌 3 階 「宗谷」

講師 東京海上日動火災保険株式会社札幌支店長 中尾 明洋 様

東京海上日動リスクコンサルティング株式会社主席研究員 長澤 岳人 様

本年度第 2 回目となる第 29 回講演会は、東京海上日動火災保険株式会社札幌支店長の中尾明洋様と東京海上日動リスクコンサルティング株式会社主席研究員長澤岳人様のお二方を講師にお迎えし、「北海道の自然災害の動向」「地震保険制度(政府)について」「自動運転の進展と今後の課題」の 3 つの演題で、ご講演いただきました。

ご講演は、何時遭遇してもおかしくない地震や、温暖化の影響を感じさせる様々な異常気象、また、いまや実現が目前の自動運転自動車の開発動向など、身近で大変興味深いテーマについて、動画や多数のスライドを使って、たいへん判りやすく解説いただきました。

配布いただいた資料も、網羅的で詳細なデータ・ブックとしてもたいへん価値あるもので、講演後の質疑も含めてたいへん密度の高い講演会となりました。ご講演いただいた中尾支店長、長澤主席研究員と参加された会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

1 「北海道の自然災害の動向」

最初の演題「北海道の自然災害の動向」では初めに北海道らにおける自然災害について、地震、噴火、風水害、台風のこれまでの発生や被災状況について、とくに地震については道内全域の地震発生確率や、札幌市における大規模地震による被害規模の予想を、また風水害では、とくに昨年 8 月の連続台風の上陸とそれにともなう大雨の被害などについて、詳細なデータや、学術的研究成果を交えて、詳細に説明いただきました

2 「地震保険制度(政府)について」

また、2 つ目の演題「地震保険制度(政府)について」では、新潟地震を契機に創設された地震保険制度が、当初の限度額 3 千億円から、その後順次補償規模が拡充され、今日の総支払限度額 11 兆 3 千億円まで引き上げられてきた経緯や、世帯加入率は徐々に上昇してきたものの 2016 年で 30.5%(損害保険料率算出機構調べ)に留まっており、依然多くの世帯では被災時に補償が受けられない可能性があることなど、他人事でない貴重な示唆をいただきました。

3 「自動運転の進展と今後の課題」

3 つ目の演題「自動運転の進展と今後の課題」では、政府が構想を進めている 2020 年高度自動運転の市場化を目前に控え、一段と加速する技術開発競争の最先端の現状を、内外メーカーの先進のテクノロジーを可視化した臨場感あふれるプロモーション映像とともにご紹介いただきました。

一方で、自動運転によって事故が起きたときの補償に関する制度設計等、とくにドライバーが運転に関与しない「レベル 4 以上」の自動運転における責任の所在など、解決

すべき新たな課題について解説いただきました。

人の関与を極力排除することで実現される高度な利便性に対して、その安全を担保する主体のモラルを何処に求めていくべきか、近未来の重要なテーマと受け止めました。

なお今回は講演会終了後、会員有志でお二人の講師を囲み引続き第二部「懇親会」を開催し、こちらも第一部「講演会」と同様、ビールと焼き鳥でたいへん盛会であったことをご報告しておきます。

(文責 藤井文世)